

# 生徒指導の機能を生かす学級活動指導案

指導者 ○○小学校 ○○ ○○

## 1. 活動名

「続・なぞの宝島」(GWT)

## 2. 指導観

### (1) 児童について

本学級の在籍児童数は36名(男子17名、女子19名)である。男女の仲も良く、休み時間や放課後によく一緒に遊んでいる。普段の学習でもわからないところを教え合う姿や励まし合う姿が見られ、明るく楽しい雰囲気がある。学習規律もしっかりしており、また、名札をつけることや言葉遣いなど学校で決まったルールなどは守ろうという意識がある。しかし、最後までじっくり話を聞くことができない子や自分の考えや質問したいことを全体の場で発表することをためらってしまう子、言いたいことを十分に表現することができずに感情を閉じ込めてしまう子など、集団作りの上で課題となる子も多い。また、低学力の子も多く、集団作りと平行して、個人への支援も充実していかななくてはならない。

6月に実施したQ-Uのアンケート結果から実態を見てみると、学校生活満足群74%(26人)、いじめや悪ふざけを受けているか、他の児童とのトラブルがある可能性が高いとされる児童(侵害行為認知群)が9%(3人)、学級内で認められることが少ないとされる非承認群の児童は9%(3人)、学級不満足群の児童は9%(3人)だった。特に不満足群であった3人は、自分のよさをみんなに上手に表現することを苦手としている。どうしても、自分勝手な解釈をしたり、自分の殻に閉じこもったり、今までの経験から友達のことや学校のことを信じていられないようである。そのため、友だちと多く関わる経験を通して、協力することのよさや充実感、そして、何よりこのクラスに自分の居場所があって、居心地のよいクラスであると感じてもらえるようにしていきたい。

これらのクラスの実態から、互いを認め合える集団での学び合いを生かした活動を展開し、一人ひとりの自己肯定感や仲間意識を高めることができる学級集団を形成していかななくてはならないと考える。

### (2) 活動について

本活動「続・なぞの宝島」は、「情報を組み立てるGWT」である。いくつかの「情報カード」をもとに、グループの中で子どもたちが互いのカードに書いてある情報をグループのメンバーに言葉のみで伝えながら、宝の場所を探し、脱出経路を探っていく活動である。与えられた「情報カード」を一定のルールに従って操作していくため、自分のカードに書かれてある内容をしっかりと伝え、同時にメンバーからの情報を正確に聴き取る力と態度が求められる。また、どのタイミングで話をするのか考えながら内容をまとめていく思考力も必要とされる。そのため、「話を最後まで聞けない子」や「自分から友だちに話しかけられない子」も互いが持つ情報を生かし、交換せざるを得ず、活動を通して自然に関わることができる。自分から行動したり、友だちに声をかけたりしづらくなっている子たちにとって、この経験は、今後の友だち関係作りにおいて自信につながる。また、シェアリングを行うことで自分の行動やグループの様子を振り返ることができ、何がいけなかったか、どうすればうまくいくのかななどを改めて考え直すことができる。そのことが、今後の規範意識の高揚につながっていくと考える。

このように、本活動を行うことで、自分の持っている情報を、言葉によって確実にメンバーに伝える作業を通して、話し合いでの大切な行動・態度に気づくことができる。また、班のメンバーで団結して一つのことに取り組み、解決していく過程を通して、自分の有用感を持つことができ、友だちとの関わりを強める上で大変意義深い。

### (3) 方法について

本活動は、自分の持っている情報を、言葉によって確実にメンバーに伝える作業を通して、話し合いでの大切な行動・態度に気づくことをねらいとしている。

授業にあたっては、まず4人グループで交流しやすいように机を囲んで向き合わせて座るようにする。グルーピングに関しては、生活班で構成し、関わり合いやすいように4人に設定した。

まず、全体の場で活動内容やルールの説明を行う。その際に「話し合いの約束」を教師の方から掲示し、クラスの約束として確認する。また、今まで学習で取り組んできた「話し合いのポイント」もあわせて掲示し、前回までの学習を振り返り、本時の学習に生かせるようにする。さらに、一人ひとりが意識して話し合いを進めることが出来るように個人で「めあて」を設定させる。

子どもたちが活動しているときは机間巡視をし、「ルール」を守ることが出来ているか声かけや助言をしたり、話し合いにおけるよさを認めたりしながら支援していく。

振り返りの場においては、「話す」「聴く」「協力」の3つの視点で自他を振り返ることが出来るように「振り返りシート」を用意し、記入させる。また、各グループの振り返りを代表に発表させることで、よかった点などをクラス全体で共有し、今後の生活に生かせるようにする。

### 3. 年間計画

GWT＝グループワークトレーニング S S T＝ソーシャルスキルトレーニング

S G E＝構成的グループエンカウンター

4月	さいころトーキング (S G E)、バースデーチェーン (S G E)、
5月	団結くずし (S G E)、体育会、無人島S O S (S G E)
6月	謎のマラソンランナー (G W T)
7月	アレンジじゃんけん、上手な断りかた (S S T)
9月	図書委員の仕事 (モラルジレンマ)、先生たちばかりが住んでいるマンション (G W T)、 なぞの宝島 (G W T)
10月	続・なぞの宝島 (G W T)、宝島からの脱出 (G W T)
11月	なわとび大会、Xからの手紙 (S G E)
12月	共同絵画 (G W T)
1月	音楽会へ向けて、卒業式に向けて
2月	10年後の私 (S G E)
3月	6年3組最高！思いでビンゴ (S G E)、別れの花束 (S G E)

### 4. 本時

平成21年 10月19日(月) 第5校時 6年〇組教室にて

### 5. 本時目標

○小グループの中で、人の話を最後までよく聴いたり、タイミングよく話をしたりすることの大切さやスキルを身につけ、今後の生活に生かそうとする態度を持つことができる。

○情報を組み立てる活動を通して、友だちと協力して様々な情報をまとめる方法を体験し、みんなで協力することの大切さやよさに気づくことができ、自己有用感をもつことができる。

## 6. 生徒指導の視点に立った本時学習の工夫

### ○生徒指導の3機能をもたせるための工夫

#### ・自己存在感を高めるために

本時活動を用いた友だちとの関わり合いの中で、話し合いを通じて自分の考えや意見を承認されることにより、自分の発言や意見に自信をもてるようにする。また、シェアリングの際にみんなで拍手をしてたたえ合うことで、自分の活躍やみんなでできたという達成感を味わうことができ、それぞれが有用感を持つるようにする。

#### ・共感的人間関係の育成のために

クラスでまとめてきた「話し合いのポイント」にそって話し合いをさせることで、自分の考えだけを交流するのではなく、友だちの意見も聞きながら、そのよさを認め、共に考えを深め、よりよい関係を築いていけるようにする。話し合いの際には、最後までしっかりきく、相手の目を見るなどの学習規律をしっかり守るようにさせ、安心して発言ができる雰囲気をつくる。

#### ・自己決定の場を持たせるために

考える時間を十分に確保し、グループで宝のありかを見つけることができるようにする。「振り返りシート」を書かせ、グループ全体でも振り返ることで、本時の活動での自分の行動やメンバーの役割などを考え、事後への生かし方を考えることができるようにする。

### ○評価の工夫

自分の設定しためあてを振り返り、今回の活動で達成できたかを振り返りシートに記入させる。あわせて、学習の感想や反省を記入させる。

## 7. 本時指導の考え方

本活動は、自分の持っている情報を、言葉によって確実にメンバーに伝える作業を通して、話し合いでの大切な行動・態度に気づくことをねらいとしている。

はじめに、グループ（4人）で交流しやすいように、机を囲んで向き合わせるようにする。全体の場で活動内容やルールの説明を行い、本時のめあてを知らせ、学習の見通しがもてるようにしたい。また、今まで学習で取り組んできた「話し合いのポイント」を掲示し、前回までの学習を振り返り、本時の学習に生かせるようにしたい。さらに、一人ひとりが意識して話し合いを進めることが出来るように個人で「めあて」を設定させ、代表に発表するようにしたい。

次に、「指示書」「遺跡の地図」「情報カード」を配り、指示書を読みあげる。質問などを受けた後、「情報カード」は裏返しにしたまま、よくきいて班員に配るように説明・指示をし、ルールの確認をする。準備ができ次第、グループごとに一斉に始める。子どもたちが活動しているときは机間巡視をし、「ルール」を守ることが出来ているか声かけや助言をしたり、話し合いにおけるよさを認めたりしながら支援していく。また、やり方がわからない場合や戸惑っている場合には助言をし、スムーズに活動が行えるようにしていきたい。

最後に、振り返りの場においては、「話す」「聴く」「協力」の3つの視点で自他を振り返ることができるように「振り返りシート」を記入させる。記入した後、代表の子に感じたこと、学んだことなどを発表させたり、子どもの気付かなかったところを知らせたりすることで、共感的な人間関係を高めることにもつながっていききたい。

## 8. 検証軸児童

A児・・・ Q—Uで学校生活不満足群。母子共に学校に対していい印象はもっていない。母の影響が強いのか、何事にも冷めた目で見ている。学力も高く、友だちもいるのだが、「友だちなんているんですか？」という具合である。学習に対する意欲も低い。1学期は発表や挙手も見られたが、最近は少なくなってきた。自尊感情も低く、自分に自信を持っていないようだ。とはいえ、担任と距離をおいているわけでもない。休み時間になると話しに来るし、日記にも歴史のことや物理のことなど質問し、コミュニケーションをとってくる。

A児がGWTの学習をすることで、友だちと協力する楽しさ、友達と一緒に学習するよさを感じてもらいたい。

B児・・・ Q—Uで学校生活満足群。しかし、学力も厳しく、字もうまく書けない。以前は、ノートを開いても学習はせず、ノートに絵を描いていた。しかし、理解力はある。個別で教えると内容も理解し、計算もできる。今までの積み重ねができていないようである。友だち関係はよく、クラスのみんなもB児のやさしさに心を許している。しかし、自分から友達に関わっていったり、声をかけたりすることを苦手としているため、なかなか自己表現ができない。GWTの学習で自分から関わっていけるかがポイントとなる。

C児・・・ Q—Uで侵害行為認知群。実際の学校生活ではむしろ模範的な子かもしれない。ルールや規律もきちんと守り、生活している。学力も高く、友達にも優しく接している。子どもたちからの話をきいてみると、たまに自己中心的な言動があるようだ。GWTをする中で、C児が友達に話を振ったり、まとめたりすることができるかがポイントである。

D児・・・ Q—Uで非承認群。日頃は活発的で、学習にスポーツに活躍している。体育会では副団長も務め、頑張っていた。男女関係なく仲良く遊ぶこともでき、友達からの信頼も厚い。しかし、自分に自信を持つことができず、いつも誰かの後ろで取り組んでいるといった感じがする。D児がもっと周りの友達から期待されていることを感じ、自尊感情を高めていく必要がある。GWTを行うことで、自己有用感を味わうことができるかがポイントである。

## 9. 準備

教師・・・学習プリント、話し合いの約束、話し合いのポイント（黒板貼り付け用）、指示書（1グループ1枚）、遺跡の地図（グループ1枚）、情報カード（グループ1セット）、正解（グループ1枚）、振り返りシート（メンバー用全員分とグループ用1枚）

児童・・・筆記用具

## 10. 本時の展開

学習活動と内容	生徒指導の立場に立った支援
<p>1. GWTの活動内容やルールを知り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○今日のGWTの内容とルールの確認をする。</p> <p>①活動内容を知る。</p> <p>②情報カード、暗号、地図を確認する。</p> <p>③「話し合いの約束」を確認する。</p>	<p>○ 拡大資料等を見せることで、GWTの内容とルール・約束などを理解させ、見通しを持って活動に参加できるようにする。</p> <p>○ 約束を掲示することで、一定のルールを守るように意識させる。</p>
<p>グループで協力して、宝のありかを見つけ、脱出しよう。</p>	
<p>2. 個人のめあてを設定し、活動を各グループで行う。</p> <p>○話し合いのポイントを参考にして、話し合いの際の「自分のめあて」を設定する。</p> <p>○グループで一斉に活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちの情報をよく聴きながら、自分の情報を正しく伝える。</li> <li>・ 話し合いながら、内容を整理しまとめていく。</li> <li>・ 宝までの経路を遺跡の地図に書き込みながら進める。</li> <li>・ 完成したグループはみんなで手をつないであげる。</li> </ul> <p>3. 本時の活動をまとめる。</p> <p>○「正解」を見て自分たちのグループの答えを確かめる。</p> <p>○活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふり返りシートに記入する。 (グループ用→個人用)</li> <li>・ 各グループの反省を代表が発表して、クラス全体で振り返りをする。</li> </ul>	<p>○机を囲んで向き合わせることで、グループで話しやすいように、互いの表情や顔を見て交流ができるようにする。</p> <p>○自分なりの話し合いのめあてを決めさせ、意識して話し合いを行えるようにする。</p> <p>○話し合いのルールを確認することで、友だちの話をよく聴き、自分の情報をしっかりと伝えると共に、自由に意見を言えるようにグループ内での場の保障をする。</p> <p>○机間巡視をしながら声かけや助言をすることで、ルールを守り、グループのメンバーと協力することの大切さに気づけるようにする。</p> <p>○地図に脱出経路を書き込ませながら、情報をまとめていく。</p> <p>○はじめに、グループでの振り返りの機会を持たせることで、お互いの良さを認め合い自分の役割や活躍について感じるができるようにする。</p> <p>○各グループの振り返りを代表に発表させることで、よかった点などをクラス全体で共有し、今後の生活に生かせるようにする。</p>

